

〔選択科目：脳神経外科〕

1．研修内容

研修期間は1ヶ月を基本とするが、8ヶ月まで選択可能である。脳神経外科疾患に対して、初期より対処し、診断・治療を指導医とともに行う。また、脳脊髄疾患のみでなく全身に対しての管理が行えるように研修指導する。

研修医に求められる診察能力および診断能力としては、病歴・身体所見から患者の状態を確実に把握し、画像診断によって総合的な診断を下すことを目標とする。

研修医の力量により、下記の手術の執刀を行う。

慢性硬膜下血腫・急性硬膜下血腫・急性硬膜外血腫
水頭症・脳室ドレナージ・脳内出血・脳圧モニター

2．一般目標

臨床に携わるすべての医師に必要な基本的な知識・技能・態度の研修の一環として、脳神経外科疾患を発見し、専門医と協力して診察ができる。

3．行動目標

- (1) 紹介および救急患者の神経学的検査、適切な補助検査の進め方と診断。
- (2) 意識障害患者の気道確保（気管内挿管）。
- (3) 意識障害患者の中心静脈確保。
- (4) 意識障害患者の初期診察において、薬剤の使用法の修得。
- (5) 患者・家族へのインフォームドコンセントの修得。
- (6) 腰椎穿刺。
- (7) 意識障害患者の気管切開。
- (9) 重症頭部外傷患者の頭蓋内圧モニター。
- (10) 慢性硬膜下血腫患者の穿頭血腫除去。
- (11) 緊急時脳血管撮影。

4．研修目標

- (1) 経験した方がよい主要疾患
 - 1) 頭部外傷
 - 2) 脳血管障害
 - 3) 脊椎脊髄疾患
 - 4) 脳腫瘍

(2) 研修すべき主な診断・検査法

- 1) 腰椎穿刺
- 2) 血管撮影 (セルジンガー・直接穿刺法)
- 3) MRI / CT

(3) 研修すべき手技・治療法

- 1) 中心静脈確保
- 2) 気管内挿管
- 3) 気管切開
- 4) 意識障害の緊急時治療方法
- 5) 頭蓋内圧亢進症の緊急時治療方法
- 6) 痙攣発作の緊急時治療方法
- 7) 手術の周術期管理

5 . 研修実績

- (1) 入院患者数 : 20 人 / 月
- (2) 救急外来患者数 : 20 人 / 月
- (3) 手術患者数 : 10 ~ 15 人 / 月

6 . 選択科目で脳神経外科を 2 ヶ月以上選択する場合には、上記研修項目の症例数と基本手技が数多く経験できる。